



せんだいくじほん きたいせいきょうでん

本書は「先代旧事本紀大成経伝」シリーズ全24として発行予定の(一)にあたります。先代旧事本紀大成経とはわが国の神典及び国史とされる古事記、日本書紀よりさらに古く西暦622年に完成した書物であり、その内容は記紀の不足を補うに余りあるものでありながら徳川幕府による禁書、明治政府の不敬罪での圧殺を恐れ、公に研究されないまま篤志家と一国学者の私家版でのみ保存されてきた貴重な文献です。そこには活き活きとした古代日本の姿、日本人の志の美しさが刻まれていて、歴史だけでなく文学的、哲学的にも価値のある内容となっています。推古天皇の勅命により聖徳太子が編纂した72巻に及ぶ圧巻の書物を未来へつなげるために現代語訳を付してお届けします。

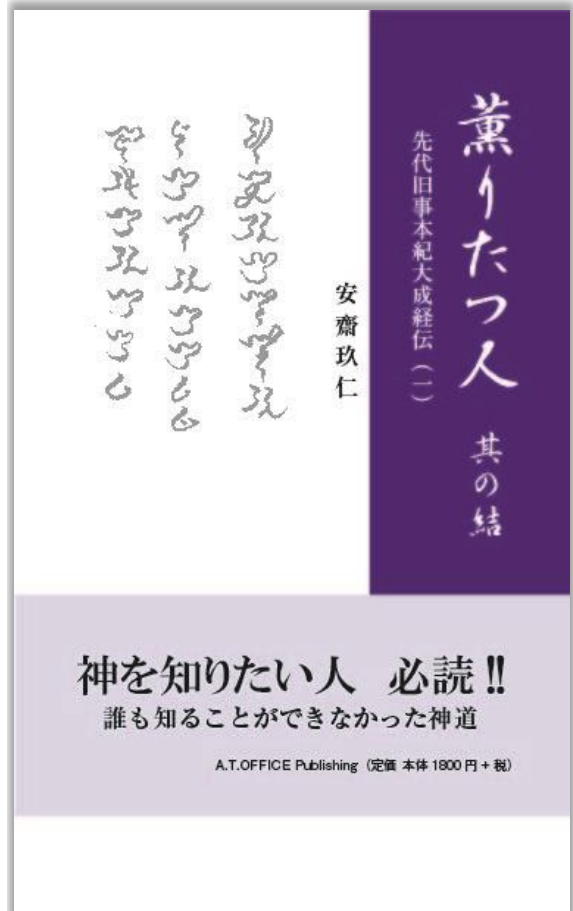
発行 エー・ティー・オフィス
〒107-0062 東京都港区南青山4-8-15-501
Tel 03(5411)4054 Fax 03(5411)3407
info@edition-at.co.jp

第一章 わが師 薫りたつ人 前作、薫りたつ人(其の巻く参)から二十三年を経たの結び篇。先代旧事本紀大成経を学び続け、神は頼るべからず学ぶべしというその教えに沿って、宗教のあるべき姿を真摯に問う。

第二章 三宝(仏法僧)から三法(神儒仏)へ 空海のその先へ行きたいという願いは、どう果たされたか。真言密教の秘儀と神道奥義が重なり交差する意味。神の道を伝えた聖徳太子は仏教の何を必要としたのか。

第三章 先代旧事本紀大成経伝 本居宣長、折口信夫を引用しつつ、記紀と飛鳥時代末期(六二二年)聖徳太子によって著された先代旧事本紀大成経との比較を試み、神とは何かを追究し、定義した。また聖徳太子側近の大連秦河勝による大成経序伝全文をルビ付きで掲載、わかりやすく解説し、全七十二巻の全貌と意義を明らかにした。古代神道から国家神道へ変容していった歴史を詳しく綴り、失われた道を示し、日本人にとって今一番必要な「心」とは何かを解き明かした。

※先代旧事本紀七十二巻本は長く秘本扱いされ一般には入手困難なため、本シリーズは漢文原文を読み易くすることに努め、またお求めやすい普及版として企画しました。幅広い年代層にお勧めしたいと考えております。



ご注文申込書	貴店名・帖合	注文数	発行 エー・ティー・オフィス A.T.OFFICE Publishing Tel 03-5411-4054 Fax 03-5411-3407
			<p style="text-align: center;">薫りたつ人 其の結 先代旧事本紀大成経伝 (一) 安齋玖仁 著</p> <p style="text-align: center;">四六版/並製本/324頁 定価 1800円+税</p>
			ISBN978-4-908665-00-4 C0014 ¥1800E

●全国の書店でお求めになれます。書店様へ、ご注文は JRC まで FAX 03-3294-2177